

委託業務成果報告書

大学等発スタートアップシンポジウム2026

～世界で勝てるスタートアップ創出・成長に向けたステークホルダーの役割～

令和8年3月31日

株式会社角川アスキー総合研究所

1. はじめに

1-①. 本事業の背景・目的・内容

背景

①平成24年度～「大学発新産業創出プログラム(START)」による支援

当プログラムを通じて、大学等発スタートアップの起業前段階から政府資金と民間の事業化ノウハウ等を組み合わせることにより、リスクは高いがポテンシャルの高いシーズに関して、事業戦略・知的戦略を構築し、市場や出口を見据えて事業化を目指す取組への支援を行ってきた。

②令和4年度～「大学発新産業創出基金事業」

当計画の策定により、文部科学省として、大学等発スタートアップ創出支援の抜本的強化に向け、約1,000億円の基金を国立研究開発法人科学技術振興機構に造成し、社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する大学等のアカデミアから生まれるスタートアップの創出を質・量ともに充実させること、大学等発スタートアップの継続的な創出を支え人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成することを見据え強化を進めてきた。

③次世代型オープンイノベーションのモデル形成事業

大学を介したスタートアップと事業会社との協業等を通じて双方の成長を実現する共に、大学に社会的資本が還流するモデルの形成を目指す。

目的

ヘルスケア、Climate Teck、量子・宇宙関連領域をはじめディープテック系スタートアップは地域を含めた国内各所から生まれており、その成長は国内にとどまるところを知らずグローバルに拡大している。スタートアップの更なる発展を見据え、大学を中心としたスタートアップエコシステムを形成、強化することを目的に、大学等とVC/CVC、金融機関、大学等発スタートアップ、自治体等の相互理解、連携を深めるシンポジウムを開催することで登壇者による多様な切り口のセッションやスタートアップエコシステム形成を目指す地域間のネットワークや大学ごとの海外連携の取り組み、グローバルに活躍するスタートアップの事例を紹介し、ネットワーキングの機会等、今後のご活動に有用な場をご提供する。

内容

① 大学等発スタートアップの創出に関するシンポジウムの実施

② 大学等発スタートアップの創出に関する意見調査

2. シンポジウム実施

2-①. シンポジウム準備・実施

シンポジウム開催に向け、登壇者様との打ち合わせや各種制作物対応等を行い、昨年の改善点に基づき運営を行った。準備・企画部分では改善された点が多く、運営・実行の部分では来場者様のご対応など新たな改善点が見られた。

実施内容

準備・企画

1. 登壇者様との事前打ち合わせ

基調講演、パネルディスカッションⅠ～Ⅲの登壇者様との打ち合わせの実施により、ディスカッションテーマや運営に係るオペレーションのすり合わせを実施。

2. 制作物

来場者配布用冊子、ポスター、VC/CVCブースパネル、投影資料等各種制作物の制作を実施。

3. 運営オペレーション構築とマニュアル化

昨年度のマニュアルに基づき、今年度の特異事項によるマニュアルの変更を実施。

1. 会場・配信関連設営

受付、クローク、ステージ上の設営、配信関連のカメラ等の機材の設営を実施。

2. リハーサル運営

MC、テクニカル・進行チームを含むリハーサル運営を実施。

3. 本番進行

シンポジウム本番の進行、登壇者様への対応等を実施。

4. 来場者対応

誘導、受付、クローク、懇親会等による来場者対応を実施。

運営・実行

前回の改善～本年度実施後の気づき

準備・企画

1. LP公開・チラシポスター送付

文科省様とスムーズに連携ができ、開催50日前の12/3にLP公開、大学等への案内が12/10週に行えた。

2. 集客改善

事前申込261名(昨年264名)来場者161名(昨年210名)であった。昨年比は事前申込98.8%来場者76.6%。事前申込者の来場率(約60%)であった。

3. 会場設営

受付8人体制により入場時の受付列の抑制に対応。シンポジウム実施の際はVC/CVCブースをホワイエに設置し、懇親会時は同会場にとブースを移動。すべての時間においてシームレスに積極的な意見交換が見られた。

運営・実行

4. 来場者対応

登壇者様と随行者様のパスを分けることで懇親会での混乱を回避。受付を8人体制にし、属性ごとのリスト対応の徹底により配布ミスなどを無くす。

5. オンラインアンケート

回答率アップを目的に、オンラインアンケートを実施。パス裏面、会場/配信スライド(休憩時)にQRコードを掲載。受付/司会からアナウンスによる回答を促す。

2-②. シンポジウム概要

タイトル

大学等発スタートアップシンポジウム 2026
～世界で勝てるスタートアップ創出・成長に向けた各ステークホルダーの役割～

目的

ヘルスケア、Climate Tech、量子・宇宙領域をはじめディープテック系スタートアップは地域を含めた国内各所から生まれており、その成長は国内にとどまるところを知らずグローバルに拡大しております。スタートアップの更なる発展を見据え、大学を中心としたスタートアップエコシステムを形成、強化することを目的に、大学等とVC/CVC、金融機関、大学等発スタートアップ、自治体等の相互理解、連携を深めるシンポジウムを開催します。
本シンポジウムでは、大学の支援体制の強化や政府支援の活用、大企業との協業などをテーマにしたパネルセッションの他、参加者同士の交流やネットワーキングを通じ、今後の活動に有用な場を提供します。

日程

2026年1月21日(水)13:00-18:30
※受付開始: 12:00-

会場

東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
(〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1)

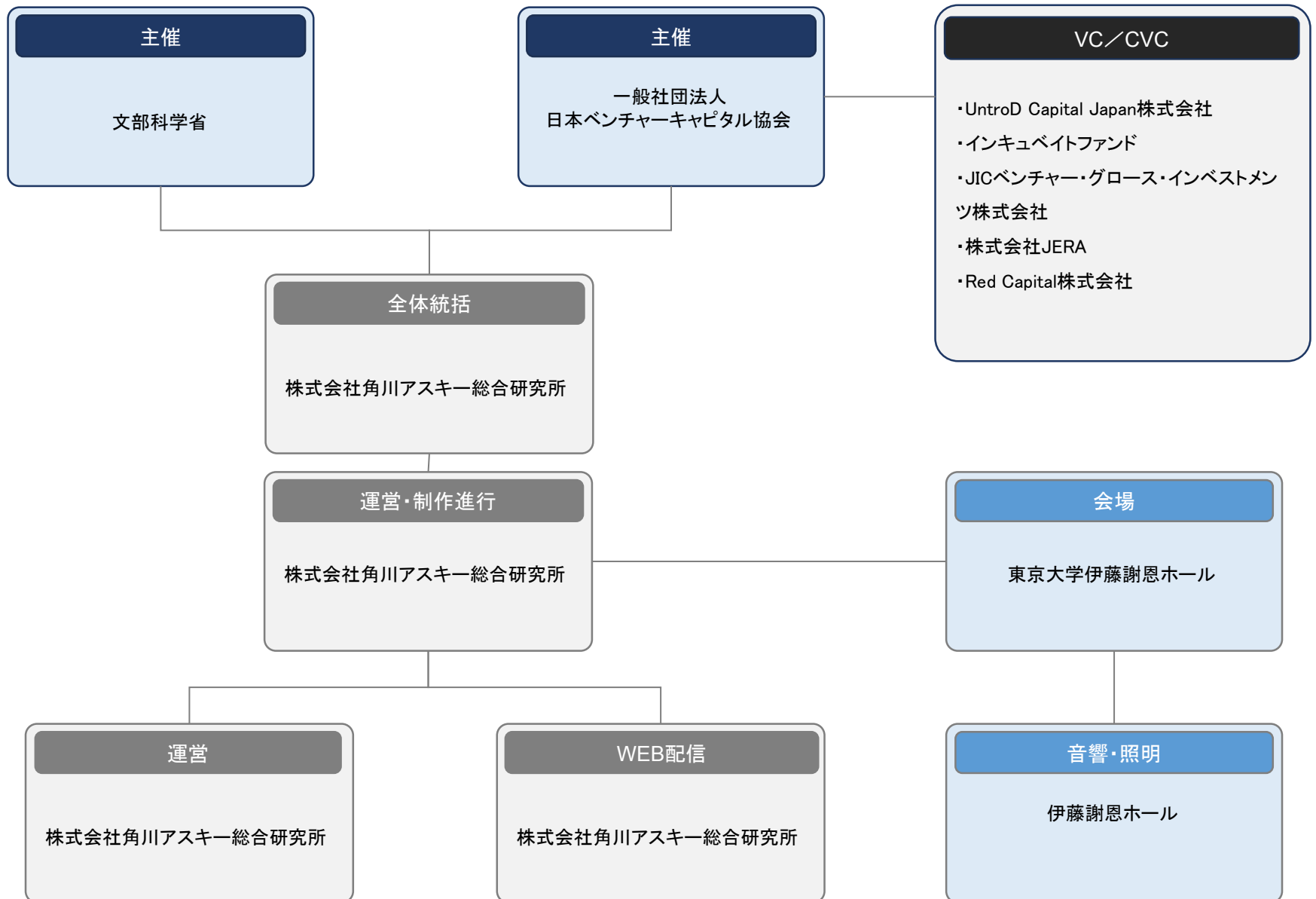
実施形態

ハイブリッド形式(現地開催 & オンライン開催)

来場者

現地参加	最大300名
オンライン参加	最大500名

2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～運営体制図～



2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～シンポジウムスケジュール～

※文部科学省様、JVCA様: 10:30集合

	全体	文科省様 JVCA様	MC	演出進行	テクニカル					登壇者様	運営 (誘導)	運営 (受付)		
					音響	照明	映像	配信	美術等					
7:00													7:00	
:30													:30	
8:00	準備・調整			↓スタッフ入り(~8:00)								↓スタッフ入り(~8:00)	8:00	
:30				進行MTG								オリエンテーション	8:30	
8:30												導線確認 サイン設置	受付準備	8:00
8:00														8:00
:30		文科省 様	調整											:30
9:00		JVCA様 入り ~10:30	MC入り ~10:30											9:00
:30	リハーサル													:30
10:00														10:00
:30														:30
10:00														10:00
:30														:30
11:00														11:00
:30														:30
11:00														11:00
:30														:30
12:00	誘導準備・誘導開始													12:00
:30														:30
12:00	受付	登壇者様 アテンド												12:00
:30														:30
13:00														13:00
:30														:30
13:00														13:00
:30														:30
14:00														14:00
:30														:30
14:00														14:00
:30														:30
15:00														15:00
:30														:30
15:00														15:00
:30														:30
16:00														16:00
:30														:30
17:00														17:00
:30														:30
18:00	懇親会													18:00
:30														:30
18:00														18:00
:30														:30
18:00	客出し													18:00
:30														:30
19:00														19:00
:30														:30
20:00	原状回復・撤収													20:00
:30														:30
21:00														21:00

終了

2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～登壇者一覧No.1～

オープニングスピーチ

国分 政秀

文部科学省
科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課長

2003年 文部科学省入省
2015年 OECD日本政府代表部一等書記官
2019年 文部科学省大臣官房総務課企画官
2020年 研究開発局宇宙開発利用課宇宙利活用推進室長
2022年 大臣秘書官事務取扱
2023年 研究振興局参事官(情報担当)付計算科学技術推進企画官
2024年 研究振興局参事官(情報担当)
2025年 科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課長



郷治 友孝

日本ベンチャーキャピタル協会 会長
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ (UTECH)
代表取締役社長CEO・マネージングパートナー

1996年通商産業省(現経済産業省)入省、我が国ベンチャーキャピタルファンドの根拠法となった『投資事業有限責任組合法』(1998年11月施行)を起草し、文化庁、金融庁も経て、2004年4月UTECH創業に当たり退官。
以来、UTECH1号から6号までの投資事業有限責任組合(計約1300億円)のベンチャーキャピタルファンドの設立・運営、東京大学発をはじめとする大学関連スタートアップへのシード/アーリーからの投資育成戦略、UTECHのチームビルディングや国内外の大学・研究機関との関係構築を行ってきた。
投資先企業の中からこれまでに22社がM&A等、20社が株式上場を果たす。
近年行った研究では、科学技術に立脚したスタートアップの成功要因をデータサイエンスを用いてモデル化。
2022年7月より日本ベンチャーキャピタル協会副会長、2023年7月より同協会会長。
1996年東京大学法学部卒、2003年米国スタンフォード大学経営学修士(MBA)、2020年東京大学博士(工学)。



基調講演

白坂 成功氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
委員長/教授



東京大学大学院修士課程修了(航空宇宙工学)、慶應義塾大学大学院後期博士課程修了(システムエンジニアリング学)。大学院修士課程修了後、三菱電機にて15年間、宇宙開発に従事。「このとりの」などの開発に参画。専門分野は大規模システム開発、技術・社会融合システムのイノベーション創出方法論やシステムズエンジニアリング。2008年より慶應義塾大学大学院SDM研究科非常勤准教授。2010年より同専任准教授、2017年より同教授。2023年10月より同研究科 委員長に就任。2015年12月～2019年3月まで内閣府革新的研究開発推進プログラム(imPACT)のプログラムマネージャーとしてオンデマンド型小型合成開口レーダ(SAR)衛星を開発。その技術成果を社会実装するために株式会社Synsperspectiveを共同創業者として創業。内閣府宇宙政策委員会、経産省 産業構造審議会 製造産業分科会等、多くの委員会の委員として政府の活動を支援。

VC/CVC ピッチ

UntroD Capital Japan株式会社

取締役
登壇者 山家 創氏

インキュベイトファンド

代表パートナー
登壇者 村田 祐介氏

JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社

ベンチャーキャピタリスト
登壇者 鈴木 はな絵氏

株式会社JERA

CVCユニット ユニット長
登壇者 上田 隆氏

Red Capital株式会社

代表取締役マネージングパートナー
登壇者 井上 智子氏

2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～登壇者一覧No.2～

パネルディスカッション I

PANELIST

植田 浩輔 氏

東京大学産創プラットフォーム開発株式会社
代表取締役社長



東京大学の子会社として、総額600億円を超える大学VCファンド、25大学・国立研究機関の参画するアクセラプログラム「1stRound」の運営など、アカデミアを中心としたイノベーション・エコシステム形成をリード。損害保険ジャパン、国立研究開発法人科学技術振興機構、株式会社グーツライブ（セガサミーHD戦略子会社）、ミスミグループ本社を経て、2017年に設立もない東大IPCへ参画。2022年代表取締役社長に就任。
大学院修了後、29歳までエンタメ系劇団の看板俳優兼制作プロデューサーとして「Startup」し、数千人を動員する劇団に成長させ小劇場界を席巻した異色の経歴を持つ。官と民の組織の幅広いビジネス経験に舞台創造で培った知見を活かし、新たな価値の創造と、次世代の挑戦者の育成・支援に取り組んでいる。

PANELIST

武田 一哉 氏

東海国立大学機構 機構アドバイザー/名古屋大学 総長特別補佐・教授



1985年名古屋大学修士修了後、KDD(国際電気通信(株)現KDDI)入社、ATR(国際電気通信基礎技術研究所)出向、KDD研究所勤務を経て、1995年名古屋大学に赴任、工学研究科、情報学研究科、未来社会創造機構において、信号処理、機械学習の教育研究に従事、自動車運転などの人間行動のモデル化とその応用を専門としている。2015年自動運転ベンチャーのティアフォー社設立に参加、2016-2023年同社代表取締役。名古屋大学副総長、Central Japan Innovation Capital代表取締役など、大学成果の社会実装方法としての起業とその支援の現場に身を置いた。博士(工学)

PANELIST

桑田 佳幸 氏

株式会社ayumo
代表取締役



大阪大学大学院工学研究科修了後、AGC株式会社にエンジニアとして入社。その後、複数のコンサルティングファームにて、官公庁・自治体や民間企業への新規事業・新産業創出支援、経営計画策定支援、サプライチェーン再構築支援に従事。また、大阪大学共創機構にて若い研究員を担い、多数の起業志望の研究者への事業化検討支援業務に従事する中で、森口悠医師と出会う。その後、2023年6月に森口らとともに、『歩行困難に悩む人々が早期に治療を受けられるサービスの実現』を目指し、歩行補助を活用したAI医療機器やウェルネスサービスを開発する株式会社ayumoを共同創業。代表取締役に就任。

MODERATOR

坂本 教晃

日本ベンチャーキャピタル協会 産学連携部会委員 兼 企画部長
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ (UTEK)
代表取締役COO マネージングパートナー



経済産業省では、中小企業金融円滑化関連法案や家電リサイクル法の法作成業務や未踏ソフトウェアプロジェクトに従事。
退官後、アパレル流通のファミリービジネスに参画し、新規事業立ち上げ及び事業整理を実施。
McKinsey&Companyでは、日本・東南アジア・欧州を中心に製薬、医療機器、自動車、ハイテク、消費財、金融機関等の業界各社に対し、営業・マーケティング、SCM、M&Aに関するプロジェクトに従事。
UTEKにおいては、IT/AIを中心に、ハードウェア及びヘルスケア分野に投資を行っている。これまで国内外30社以上のシード・リード投資を主導し、その内6社がIPO、3社がM&A。

PANELIST

モーハナラジャー・ガジャン 氏



ラビテック株式会社
代表取締役CEO

ロボット向けインターネットの先駆者となった、EU出資の大規模プロジェクト「RoboEarth」にて、Rapyutaを構想・開発。2013年にCubliプロジェクトを主導し、YouTubeで1000万回以上の再生回数を記録。2014年スイス連邦工科大学チューリッヒ校にて博士号を取得、東京工業大学にて修士・修士号(工学)を取得、久留米高等工業専門学校卒。2014年に当社設立。

PANELIST

吉井 幸恵 氏



リンクメッド株式会社
代表取締役CEO

放射性同位体⁶⁴Cuを用いた革新的「見える」がん治療を開発するリンクメッド株式会社を2022年に創業し、代表取締役社長を務める研究者。筑波大学卒業、同大学院で博士(理学)取得。福井大学の後、量子科学技術研究開発機構(旧放射線医学総合研究所)にて10年以上のがんの放射性治療薬の研究開発を経て現職。
皆様の健康と幸せのために、最先端科学と医療をつなぐ(Link for Life)の実現を目指し、現在、臨床で第Ⅲ相試験、評んで第Ⅰ相試験を実施中。

MODERATOR

山岸 広太郎



日本ベンチャーキャピタル協会 常務理事・産学連携部会長
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ
代表取締役社長

慶應義塾大学経済学部卒業後、株式会社日経BPに入社。
編集やウェブ媒体の開発に従事した後、米CNETの日本人にて「CNET Japan」の初代編集長に就任。2004年に、グリー株式会社を共同創業。副社長として事業部門などを10年以上統括し、東証1部上場まで導く。2015年にKIIを設立。アカデミアの世界とビジネスの橋渡しとなり、社会課題を解決するディープテックスタートアップの技術・研究の社会実装を支援。2023年10月には大学VC初のインパクトファンド「KII3号インパクトファンド」を設立。ファンド運用の合計額は350億円に上る。日本ベンチャーキャピタル協会にて常務理事及び産学連携部会長も務め、VC業界の発展、大学発ベンチャーの創出に力を入れている。2021年5月から4年間、慶應義塾の常任理事(財務、募金、起業家教育・支援担当)を兼務。

2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～登壇者一覧No.3～

パネルディスカッションⅢ

PANELIST

青野 考氏



富士通株式会社
戦略アライアンス本部
ストラテジックエンゲージメントオフィス Head

富士通入社後、国内・海外のスーパーコンピューターシステムのビジネス拡大に従事。経営戦略室での全社戦略策定業務を経て、2018年より創業・データヘルスを中心としたヘルスケアの新領域事業化を推進。2022年よりUvance開始とともにHead of Healthy LivingとしてKFAのビジネス立上げをリード。2024年よりHead of Strategic Engagement Officeとして、大企業、スタートアップを中心としたインダストリーとのアライアンス活動に従事。

PANELIST

館林 俊平氏



KDDI株式会社
オープンイノベーション推進本部 副本部長

2006年入社。
2012年よりスタートアップへの出資/協業、新規事業創出に携わり、モバイルゲーム、スポーツ、エンターテインメント、XR、バーチャル渋谷等を担当。
2022年 BI推進部長、2023年Web3推進部長を務め、2025年4月より現職。
KDDI Open Innovation Fund、KDDI@Laboなどのオープンイノベーション活動とWeb3を含む新規事業を管掌

PANELIST

近藤 玲氏



ダイキン工業株式会社
テクノロジー・イノベーションセンター・CVC室・室長

2008年ダイキン工業株式会社入社。空調のコア技術開発に携わり、特に圧縮機用インバータおよびモータの研究開発に従事。2018年より戦略室にて技術戦略担当課長として東京大学との包括連携の立ち上げや東京大学発ベンチャーとの協業推進を主導。ダイキン工業とベンチャー企業の協創文化の芽を作った。2025年よりCVC室室長。技術者としての現場経験を基に、外部パートナーとの協創を通じて社会課題解決と事業強化を目指す。

MODERATOR

加藤 由紀子



日本ベンチャーキャピタル協会 産学連携部会委員
SBIインベストメント株式会社
取締役 執行役員 CVC事業部長

2002年、SBIグループのバイオ・ヘルスケア専門VCバイオビジョンキャピタルの立ち上げに参画。2005年にSBIインベストメント株式会社に転籍後、投資部門にて国内外のベンチャー投資育成、経営支援等に携わる。2016年からSBIインベストメント株式会社CVC事業部にて事業会社と共同で設立運営するCVCファンドを運用。オープンイノベーションを通じた新規事業創出支援に従事。2023年よりSBIインベストメント株式会社 取締役 執行役員 CVC事業部長。2015年Forbes Japan Midas List(日本で最も影響力のあるベンチャー投資家ランキング) 第1位。一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会産学連携部会委員。

クロージングスピーチ

山岸 広太郎



日本ベンチャーキャピタル協会 常務理事・産学連携部会長
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ
代表取締役社長

慶應義塾大学経済学部卒業後、株式会社日経BPに入社。編集やウェブ媒体の開発に従事した後、米国CNETの日本法人にて「CNET Japan」の初代編集長に就任。2004年に、グリー株式会社を共同創業。副社長として事業部門などを10年以上統括し、東証1部上場まで導く。2015年にKIIを設立。アカデミアの世界とビジネスの橋渡しとなり、社会課題を解決するディープテックスタートアップの技術・研究の社会実装を支援。2023年10月には大学VC初のインパクトファンド「KII3号インパクトファンド」を設立。ファンド運用の合計額は350億円を超える。日本ベンチャーキャピタル協会にて常務理事及び産学連携部会長も務め、VC業界の発展、大学発ベンチャーの創出に力を入れている。2021年5月から4年間、慶應義塾の常任理事(財務、募金、起業家教育・支援担当)を務める。

2-④. シンポジウム結果 ～来場者/オンライン参加者～

■現地参加 事前申込

属性	事前申込数
大学等教職員(高等専門学校、国立研究開発法人を含む)	76
VC・CVC【JVCA/VC・CVC会員】	109
事業会社・専門家等【JVCA/賛助会員】	26
投資家・金融機関【JVCA会員外】	9
中堅・大手事業会社【JVCA会員外】	10
スタートアップ	11
省庁・自治体	4
学生	3
その他	17
事前申込数 合計	265

■来場者数

時間帯	来場者数	来場総数
基調講演	88	88
VC/CVCピッチ	33	121
パネルディスカッション1	18	139
パネルディスカッション2	15	154
パネルディスカッション3	7	161(=総来場数)

■オンライン視聴 事前申込

区分	事前申込数
オンライン参加申込者	247

■オンライン視聴数

時間帯	最大接続数
基調講演	120
VC/CVCピッチ	140
パネルディスカッション1	132
パネルディスカッション2	122
パネルディスカッション3	94

◀ 現地参加 来場率 60% (来場総数÷事前申込数)

2-④. シンポジウム結果 ～開催模様～

▽基調講演 大学等発宇宙ベンチャー『Synspective』の創業から上場まで

登壇者: 白坂 成功 氏 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長/教授)

「大学発として注目を集め、成長を遂げてきたSynspective」。その創業期の苦労、資金調達、技術開発、事業拡大、そして上場に至るまでの道のりを、創業者である白坂成功氏が自ら解説

1. ImPACTプログラムとSAR衛星の小型化・コンステレーション構想

内閣府「ImPACT」にて、広域災害時に夜間や悪天候でも地表を観測できる00kg級の小型SAR(合成開口レーダ)衛星を開発。複数機を連携させる「コンステレーション」により、発災後時間以内に被害状況のデータを取得・提供するシステムを構築した。

2. グローバル市場における「予見性」と「競合の少なさ」

米国の安全保障上の理由からSAR技術の商用利用が長らく制限されていたため、グローバル市場において圧倒的に競合が少ない環境(ブルーオーシャン)であった。光学衛星に続きSAR衛星のデータ利活用が進むという強い「ビジネスの予見性」が創業の原動力となった。

3. データから「ソリューション(情報)」への変換

衛星の生データをそのまま提供するのではなくAI(ディープラーニング)等を活用し、インフラの地盤沈下監視や石油タンクの残量予測など、顧客(政府や民間企業)が即座に意思決定に使える「情報・ソリューション」に変換して提供するビジネスモデルを確立した。

4. チームビルディングと大型資金調達IPOの実現

大学の研究者が自ら起業するにあたり、技術・ビジネス・国際性を兼ね備えた経営者(現COO 新井氏)の採用に多大な時間を投資した。最適な「チーム」を組成したことで、シリーズでの109億円、累計281.9億円というディープテック特有の大型資金調達に成功し2024年12月のグロース市場上場へと至った。



2-④. シンポジウム結果 ～開催模様～

▽VC/CVCピッチ

1. UntroD Capital Japan株式会社(取締役 山家 創 氏)

ディープテック特化と伴走支援

2015年よりディープテック領域に特化(運用額400億円超)。知財や事業開発、PR等の専門家を内製化し、シードからIPO後までシームレスに支援。

地方大学発シーズの開拓

全国に拠点を設け、投資先の約6割が地方発企業。地域に眠る革新的な技術の掘り起こしに注力している。

2. インキュベイトファンド(代表パートナー 村田 祐介 氏)

「ゼロイチ」からの共同創業

既存企業への投資にとどまらず、研究者と共に事業構想を練り、会社設立前から伴走するスタイルを強みとする。

研究開発型への傾斜

直近ファンドの約2/3をディープテック領域に投資し、初期の資金供給から経営人材の紹介まで包括的にサポート。

3. JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社(ベンチャーキャピタリスト 鈴木 はな絵 氏)

グロース資金の供給

官民ファンドの枠組みを活かし、ディープテック企業がグローバル市場で競争するために必要な「レイターステージでの大規模な成長資金」を供給。

ユニコーン企業の創出

民間資金だけでは賄いきれないリスクマネーを提供し、日本発のユニコーン企業創出を力強く牽引する。

4. 株式会社JERA(CVCユニット ユニット長 上田 隆 氏)

脱炭素・エネルギー革新

「2050年ゼロエミッション」に向け、CVCを通じて脱炭素やデジタル領域のスタートアップへ投資。

実証フィールドの提供

出資に加え、自社が保有する発電所等のインフラ設備を実証実験(PoC)の場として提供し、技術の社会実装を事業会社として支援。

5. Red Capital株式会社(代表取締役マネージングパートナー 井上 智子 氏)

ライフサイエンス・ヘルスケア特化

日本の強みである医療・バイオ分野の基礎研究を事業化するため、同領域に特化したファンドを運営。

専門家集団による深いハンズオン

アカデミア、事業開発、金融など多様なバックグラウンドを持つ専門家チームが、知財戦略やグローバル治験など高度な専門性が求められる課題を伴走支援する。



2-④. シンポジウム結果 ～開催模様～

▽パネルディスカッションⅠ 大学によるスタートアップ成長支援のあり方

■セッション概要

「大学は多様なアセットやネットワークを有しており、今後それらをスタートアップの成長実現に繋げていくことが期待されます。文部科学省は、大学によるスタートアップの成長支援モデルの構築を目的に、次世代型オープンイノベーションの形成を推進しています。

本セッションでは、大学によるスタートアップと事業会社の協業によるそれぞれの成長促進や、大学への資金・人材還流を実現する具体的施策や課題について意見を交わしながら、大学の強みを最大限に活かした新たなスタートアップ成長支援のあり方について議論します」

モデレーター：

- ・坂本教晃 氏 (JVCA産学連携部会委員)

パネリスト：

- ・植田浩輔 氏 (東京大学協創プラットフォーム開発株式会社 代表取締役社長)
- ・桑田佳幸 氏 (株式会社 ayumo 代表取締役)
- ・武田一哉 氏 (東海国立大学機構 機構アドバイザー / 名古屋大学 総長特別補佐・教授)

■要点

1. 大学のアセットを活用した成長支援と次世代型オープンイノベーション

大学が有する多様なアセットやネットワークを、スタートアップの成長に直結させるための施策について議論された。文部科学省が推進する次世代型オープンイノベーションの形成を見据え、大学・スタートアップ・事業会社間の協業促進の重要性が確認された。

2. 資金・人材の好循環の実現

スタートアップの成長支援を通じ、最終的に大学へ資金や人材が還流するエコシステムの構築に向けた具体的な課題や、大学の強みを活かすための新たな支援モデルのあり方について意見が交わされた。



2-④. シンポジウム結果 ～開催模様～

▽パネルディスカッションⅡ 公的資金によるスタートアップ支援

■ セッション概要

「公的資金がスタートアップの成長にどのように寄与してきたのかを、実際に支援制度を活用してきた起業家自身が語ります。また、こうした支援が今後の成長ステージへどのようにつながっていくのか、そして公的支援への期待や求められる役割についても議論します。

ディープテック領域の挑戦を大きく後押しする公的資金の『現場のリアル』が詰まったセッションです。」

モデレーター:

山岸 広太郎 氏 (慶應イノベーションイニシアティブ代表取締役社長/ JVCA 産学連携部会長)

パネリスト:

- ・モーハナラージャー・ガジャン 氏 (ラピュタロボティクス株式会社 代表取締役 CEO)
- ・吉井幸恵 氏 (リンクメッド株式会社 代表取締役 CEO)

■ 要点

1. 起業家の視点から見た公的支援の「現場のリアル」

ディープテック領域のスタートアップ起業家から、公的資金の活用が初期の R&Dや事業の立ち上げ、成長加速にどのように具体的に寄与してきたのか、実際の経験に基づくリアルな実態が語られた。

2. 次の成長ステージに向けた公的支援への期待

初期段階の支援にとどまらず、事業拡大やグローバル展開といった今後の成長ステージへ円滑に移行するために、公的支援に対して求められる役割や制度への期待について議論が深められた。



2-④. シンポジウム結果 ～開催模様～

▽パネルディスカッションⅢ 大企業・スタートアップの協働

■ セッション概要

「本セッションでは大企業とスタートアップの協働により、どのようにイノベーションを生み出すのかを多面的に議論します。大企業がスタートアップと共に協業し成長を目指す戦略的背景、成功事例、その価値提供の在り方、連携を進める際の社内課題と克服の工夫、さらにスタートアップ側に求められる姿勢や今後注力したい領域まで、実務者の視点からリアルな経験や示唆を共有します。」

モデレーター:

加藤由紀子 氏 (JVCA産学連携部会委員)

パネリスト:

- ・青野考 氏 (富士通株式会社戦略アライアンス本部ストラテジックエンゲージメントオフィスHead)
- ・近藤玲 氏 (ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンターCVC室・室長)
- ・館林俊平 氏 (KDDI株式会社オープンイノベーション推進本部副本部長)

■ 要点

1. 大企業とスタートアップの協働によるイノベーション創出

大企業がスタートアップと共に協業し成長を目指す「戦略的背景」や、実際の「成功事例」に基づく価値提供の在り方について、実務者の視点から多面的な意見が交わされた。

2. 連携を進める際の社内課題と克服の工夫

大企業側が抱える意思決定の壁や事業部門とのギャップといった「社内課題」を克服するため、アライアンス部門やCVCが社内外の「通訳」や「ハブ」として機能する工夫が不可欠である旨が共有された。

3. スタートアップ側に求められる姿勢と今後の注力領域

協業を円滑に進めるため、スタートアップ側にも大企業の仕組みを理解し、双方向で歩み寄りながら事業を共創する姿勢が求められること、そして今後各社が注力したい領域についての展望が語られた。





大学等発スタートアップシンポジウム 2026 アンケート調査結果

持続可能なエコシステムに向けて

大学の強固なコミットメントを基盤に、「経営人材の供給」という共通課題の解決に向けた産学官の更なる連携が不可欠



シンポジウムへの高い評価

全体の**90.9%**が満足（とても満足・満足）と回答。具体的な事例紹介や多角的なパネルディスカッションが、現況理解と情報収集の二ーズに合致。



深刻な経営人材の不足

最大の課題は「**CEO候補の不足**」(**55.2%**)。資金調達以上に、経営を担う人材の確保がエコシステム形成のボトルネックとして強く認識されている。



大学の戦略的支援の進展

大学関係者の**約6割**が支援を「戦略」として位置づけ。施設貸与や技術協力に加え、今後は経営支援やマッチングの質の向上が期待される。



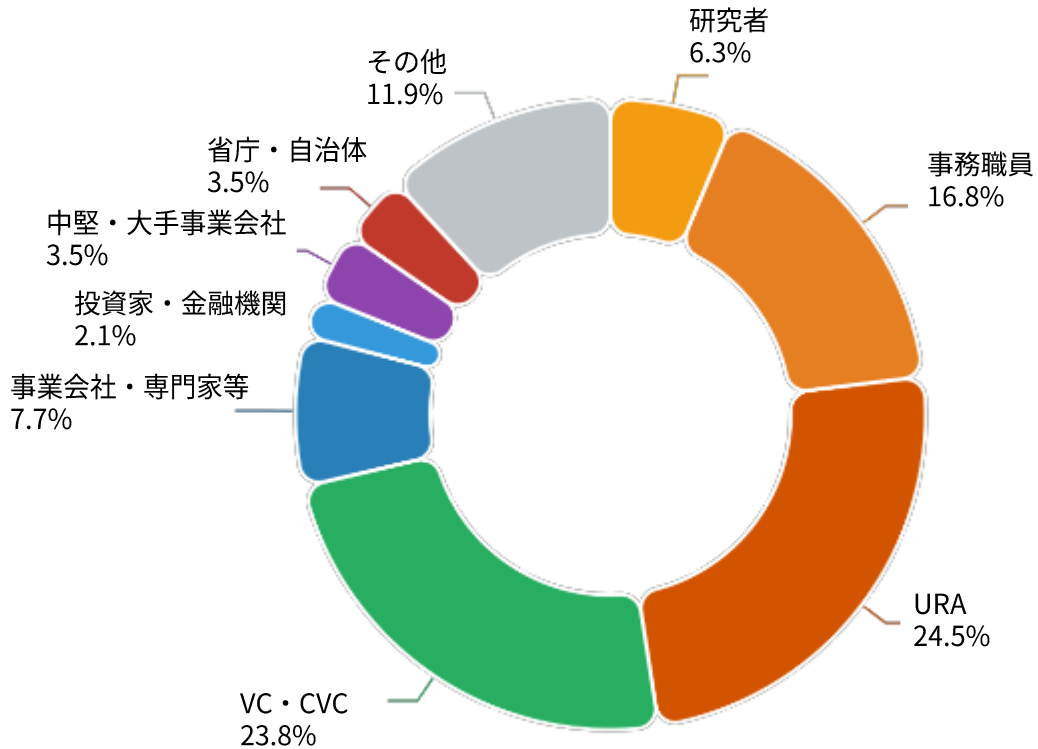
交流を通じた具体的アクション

懇親会参加者の多くが情報交換の継続やアポイント調整に繋げており、対面でのネットワーキングがエコシステム内の連携強化に有効。

01：参加者の属性とプロフィール

大学関係者とVC・CVCがコアとなり、多様なステークホルダーが参加

Q1 所属団体の種別を選択ください 単一回答 n=143



 大学関係者

47.6%

研究者・事務・URAの合計

 VC・CVC

37.1%

JVCA会員等を含む投資側

🔍 分析のポイント

- ✔️ 大学関係者が全体の約半数を占めており、特に大学内での支援を担うURA (24.5%) の参加が最も多い。
- ✔️ VC・CVCと合わせると全体の約8割に達し、スタートアップエコシステムの主要プレイヤーが中心となっている。
- ✔️ 省庁・自治体や事業会社、その他スタートアップを含む多様な層の参画も見られ、広範な関心が伺える。

意思決定層から現場の実務者まで、エコシステムを支える多様な役職者が集結

Q2 所属団体名・役職を記入ください 自由記述 回答数143件

大学・教育機関

MANAGEMENT

理事・副学長、特任准教授

PRACTITIONER

URA、学術研究支援センター主事、事務局主任

慶応大学病院、有明工業高等専門学校など、幅広い教育・研究機関から参加。

事業会社・VC

LEADERSHIP

代表取締役、部長代理、上席主任研究員

INVESTMENT

ベンチャーキャピタリスト、投資部マネージャー

QB Capital、JIC VGI、ZAIORAなど、スタートアップ支援・投資の最前線から参加。

省庁・自治体・他

GOVERNMENT

企画調査係長、広報企画担当

AGENCY

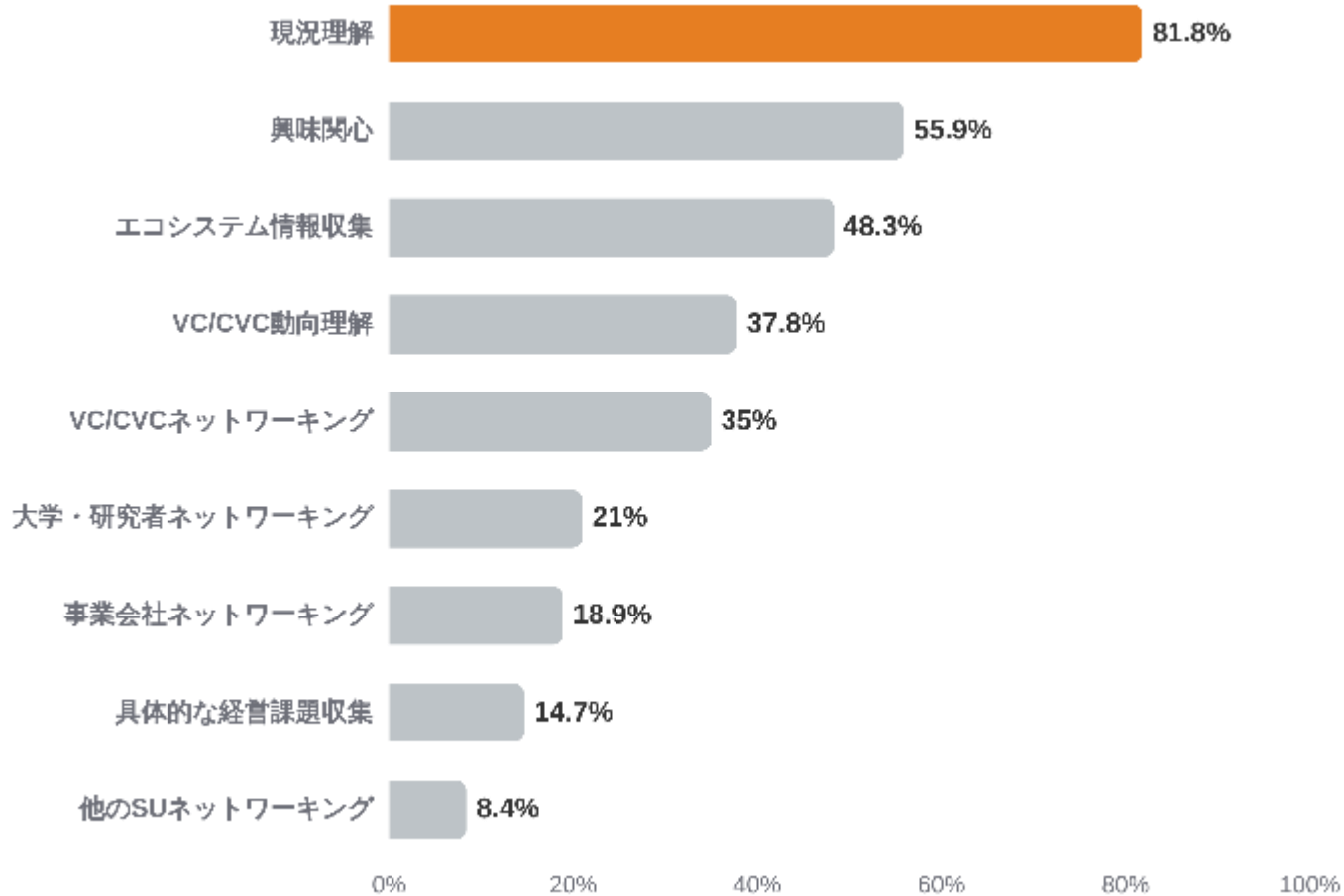
中小企業基盤整備機構担当者

文部科学省、米国大使館、独立行政法人など、政策・公的支援側からも多角的参加。

研究シーズの事業化を担う実務者（URAやVC）だけでなく、大学の経営判断を行う理事・副学長クラス、さらには中央省庁や外交機関までが参加しており、大学発スタートアップ創出が国家的な重要課題として認識されていることが伺える。

「現況理解」が8割を超え、最新動向やエコシステム形成への高い関心を確認

Q3 本シンポジウムへの参加動機を選択ください 複数回答



🎯 主要な参加目的

1. 大学発SUの現況理解 **81.8%**
2. 大学発SUへの興味関心 **55.9%**
3. エコシステム形成の情報収集 **48.3%**

💡 傾向分析

- ✔️ 情報収集だけでなく、「VC/CVCとのネットワーキング」（35.0%）といった実利的な繋がりも重視されている。
- ✔️ 特定の経営課題（14.7%）より、まずは「マクロな動向把握」が優先されている。

実務的な課題解決や、戦略策定のための情報収集が主要な動機

Q4 (Q3について) 具体的な動機を記載ください 自由記述 回答数17件

大学・URAの視点

「支援体制の構築とプロセス理解」

九州地区のプラットフォーム運営において、当事者の課題共有と解決の方向性を把握したい。

アカデミアの研究がどのように事業化・社会実装されていくか、各プレイヤーの役割を学びたい。

VC・投資家の視点

「投資戦略の深化と情報更新」

大学系VCファンドを運用しており、取り巻く環境や他社の取り組みをアップデートする良い機会と感じた。

運用ファンドに大学発スタートアップ枠を設けており、現状理解を深めるために参加した。

実務・専門家の視点

「最新動向の把握とネットワーク」

大学発スタートアップの最新トレンドを把握し、自身のコンサルティング業務に活かしたい。

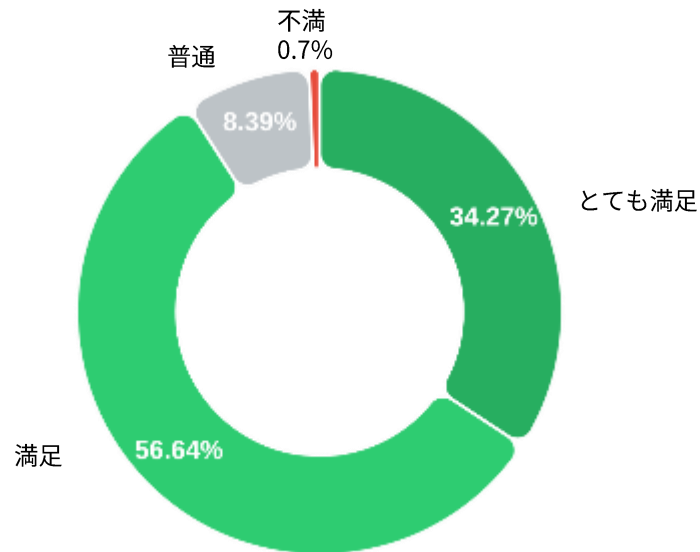
産学連携の成功事例だけでなく、具体的な苦労話や解決策を実務の参考にしたい。

自由記述からは、アンケートの選択肢だけでは見えない「**当事者としての強い課題意識**」が浮き彫りになった。特に、支援体制の構築、投資戦略のアップデート、社会実装のプロセス理解といった具体的なニーズが目立つ。

02：開催結果の評価と満足度分析

コンテンツの質が高く評価され、極めて高い満足度を達成

Q5 本シンポジウム開催内容における満足度を選択ください 単一回答 n=143



満足度	回答数	割合
とても満足	49	34.3%
満足	81	56.6%
普通	12	8.4%
不満以下	1	0.7%

💡 分析結果

不満と回答した割合はわずか**0.7%**にとどまり、参加者の大半がシンポジウムの内容に概ね満足している結果となった。これは、提供された情報が参加者のニーズに合致していたことを示している。

具体的な成功・苦勞の「ストーリー」と、立場別の視点の提示が高評価

Q6 (Q5について) 満足度を選択された理由を記載ください 自由記述 回答数29件

示唆に富む講演・パネル

「日本の最先端の動向を肌で感じることができた」「どの講演も非常に興味深く、学びが多かった」といった、情報の質への評価。

具体的事例のリアリティ

Synspective社の創業から上場までの具体的なストーリーなど、経験に基づいた話に強い関心が寄せられた。

ステークホルダー別の構成

大学、VC、大企業など、各ステークホルダーの考え方の特徴がよく現れたセッション構成が好評。

最新動向の把握

「現在の日本のスタートアップを取り巻く環境を体系的に理解できた」との声が多く、情報収集の場として機能。

分析：満足度の源泉

Point 01 実体験の共有

表層的ではない、現場の苦勞や成功体験が共感を呼んだ。

Point 02 多角的な視点

支援側と起業側の両面から議論された点が有益であった。

Point 03 ネットワーキング

情報のアップデートだけでなく、交流への期待も満足度に寄与。

成功事例の共有に留まらない、より「実践的・具体的」な内容へのニーズ

Q7 次回のシンポジウムへの要望がございましたら記載ください 自由記述 回答数17件



失敗事例からの学び

成功談だけでなく、直面した困難や失敗事例を語れる登壇者の招聘。そこから得られた教訓へのニーズ。



地方拠点都市の成功例

東京一極集中の現状を超え、札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡等から誕生した有力企業の事例紹介。



具体的な契約・実務

大学、研究者、スタートアップ間での利益分配や契約（知財、株式等）の具体的な取り決め事例。



多様な起業・支援の形

博士課程学生による研究シーズ起業の事例や、私立大学における支援の取り組み紹介。

✓ 分析：期待されるシンポジウムの方向性

● 抽象から具体へ

「現況理解」の段階から、実際の課題解決に直結する「実務知」の共有が求められている。

● エコシステムの多様性

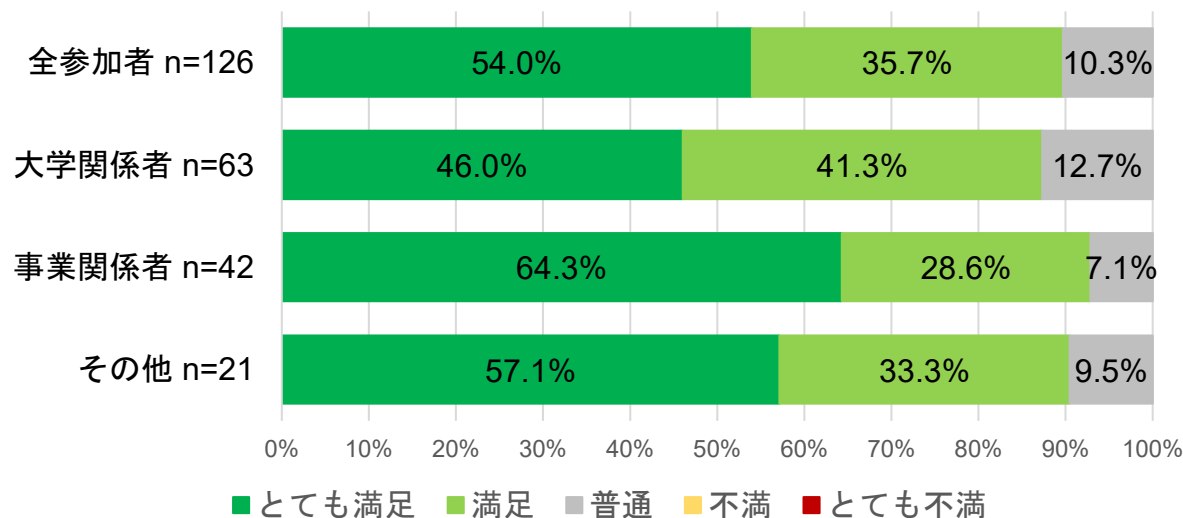
特定の大規模大学や地域に限定されない、多様なプレイヤーのロールモデルへの関心が高まっている。

具体的な成功ストーリーの学びが大きいと評価

Q8 【基調講演】 満足度を選択ください（テーマ：大学等発宇宙ベンチャー「Synspective」の創業から上場まで / 白坂 成功 氏） 単一回答 n=126※参加者のみ

参加者の満足度
89.7%

「とても満足」 + 「満足」の合計



💡 分析と評価

👉 高い共感と満足度

「とても満足」「満足」を合わせると約9割に達し、非常に高い評価を得ている。宇宙ベンチャーという難易度の高い分野でのリアルな体験談が参加者の関心を強く引き付けた。

💬 具体的な成功ストーリー

創業から上場に至るまでの具体的なストーリーは、大学関係者や投資家、事業会社など、立場を問わず多くの示唆を与える内容であったことが伺える。

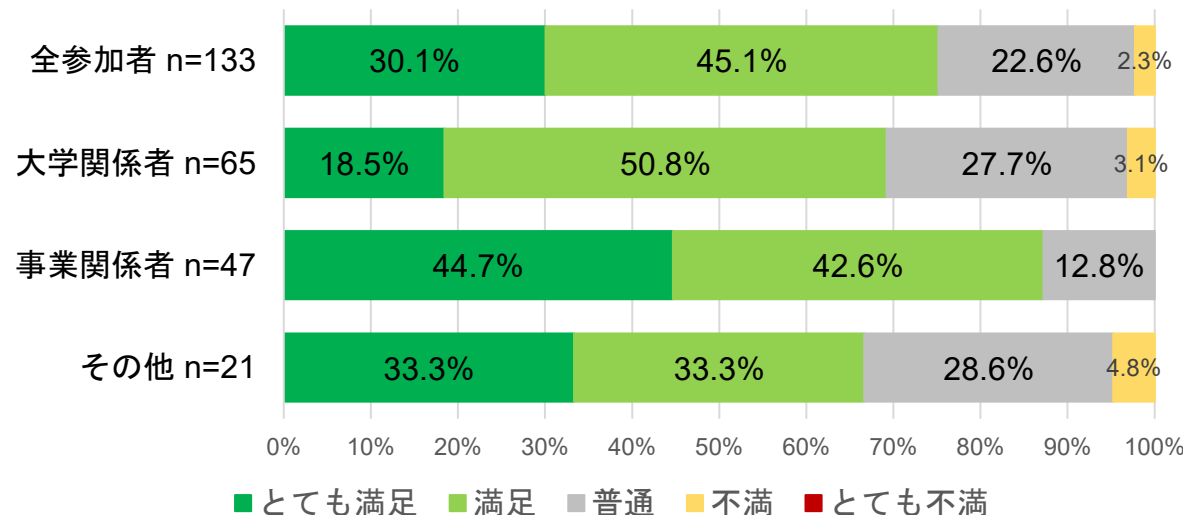
具様な投資家によるピッチが資金調達・投資動向の貴重な情報源に

Q9 【VC/CVCピッチ】満足度を選択ください（登壇：UntroD、インキュベイトファンド、JIC VGI、JERA CVC、Red Capital） 単一回答 n=133※参加者のみ

参加者の満足度

75.2%

「とても満足」 + 「満足」の合計



登壇組織

UntroD

インキュベイトファンド

JIC VGI

JERA CVC

Red Capital

分析と評価

- 参加者の約8割が内容を高評価。VC/CVCの生の声を聞ける機会としてニーズに応えた。
- 特定のVCだけでなく、独立系からCVCまで多様な背景を持つ投資家が揃ったことが満足度に寄与。
- 「普通」以下の回答が一定数あるものの、資金調達を検討する層にとっては極めて有益なセッションとなった。

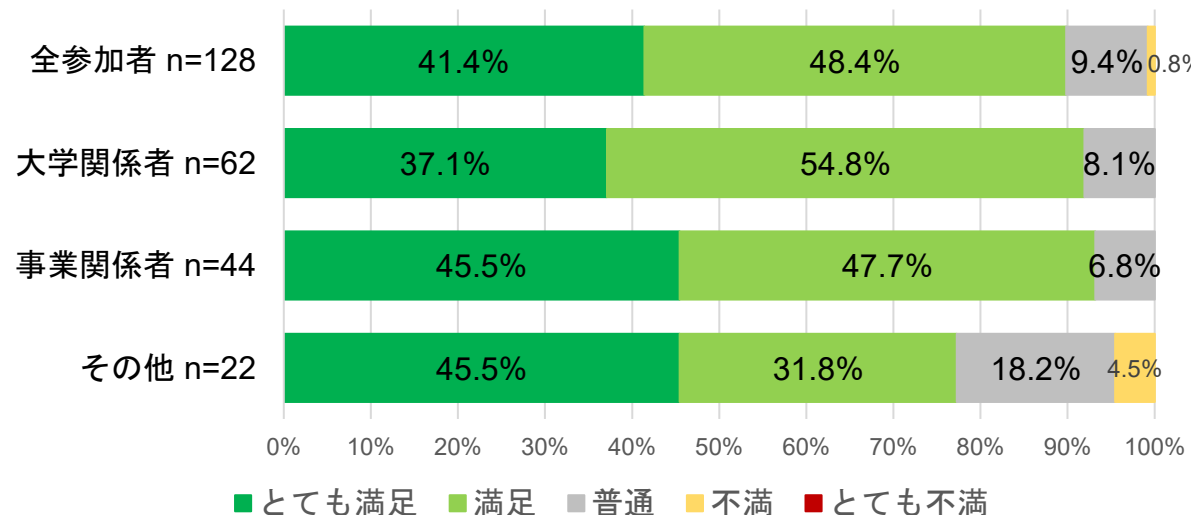
成長支援の具体的なあり方の議論が満足度を押し上げた

Q10 【パネルディスカッションI】満足度を選択ください（大学によるスタートアップ成長支援のあり方、登壇：植田 浩輔 氏、桑田 佳幸 氏、武田 一哉 氏） 単一回答 n=128※参加者のみ

参加者の満足度

89.8%

「とても満足」 + 「満足」の合計



登壇者

植田 浩輔 氏

桑田 佳幸 氏

武田 一哉 氏

分析と評価

- 大学関係者が約半数を占める本シンポジウムにおいて、最も関心の高いテーマの一つ。
- 「とても満足」が41.4%と高く、支援の具体的なあり方に関する議論が参加者の期待に合致。
- 不満（0.8%）は極めて少なく、実務に即した有益なセッションであったことが伺える。

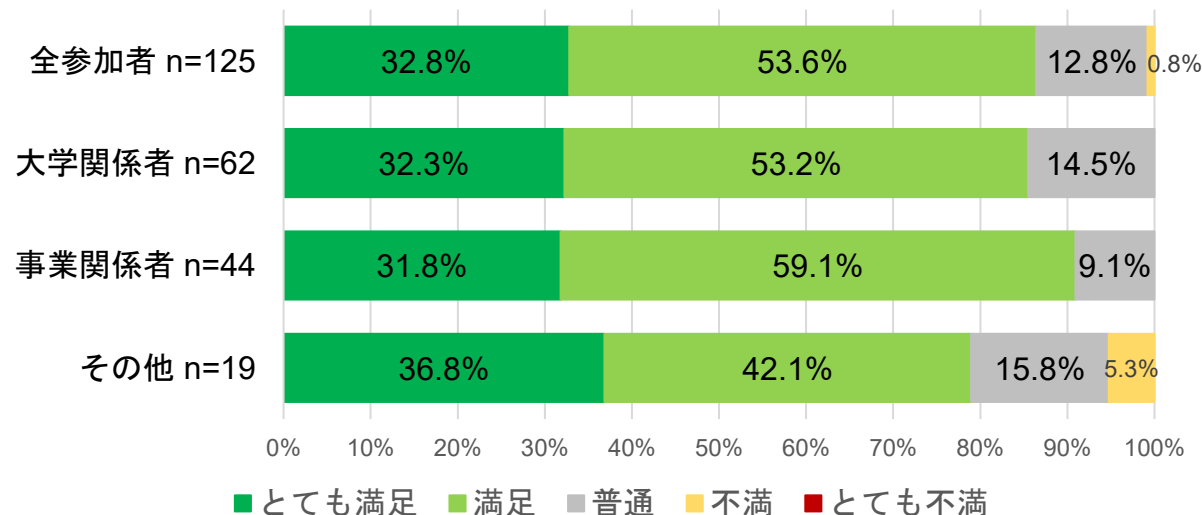
公的支援の具体的な活用法について、役立つ示唆が得られたとの声

Q11 【パネルディスカッションII】満足度を選択ください（公的資金によるスタートアップ支援、登壇：モーハナラージャー・ガジャン氏、吉井幸恵氏） 単一回答
n=125※参加者のみ

参加者の満足度

86.4%

「とても満足」+「満足」の合計



登壇者

モーハナラージャー・ガジャン氏

吉井幸恵氏

分析と評価

- 公的支援の具体的なスキームや活用法について、実務に役立つ示唆が得られたとの声が多く見られた。
- 「満足」以上の回答が約9割となっており、登壇者（モーハナラージャー・ガジャン氏、吉井幸恵氏）による議論が期待に応える内容であったことを示している。
- 大学関係者のみならず、事業者側にとっても関心の高いテーマであり、全体としてバランスの良い評価を得た。

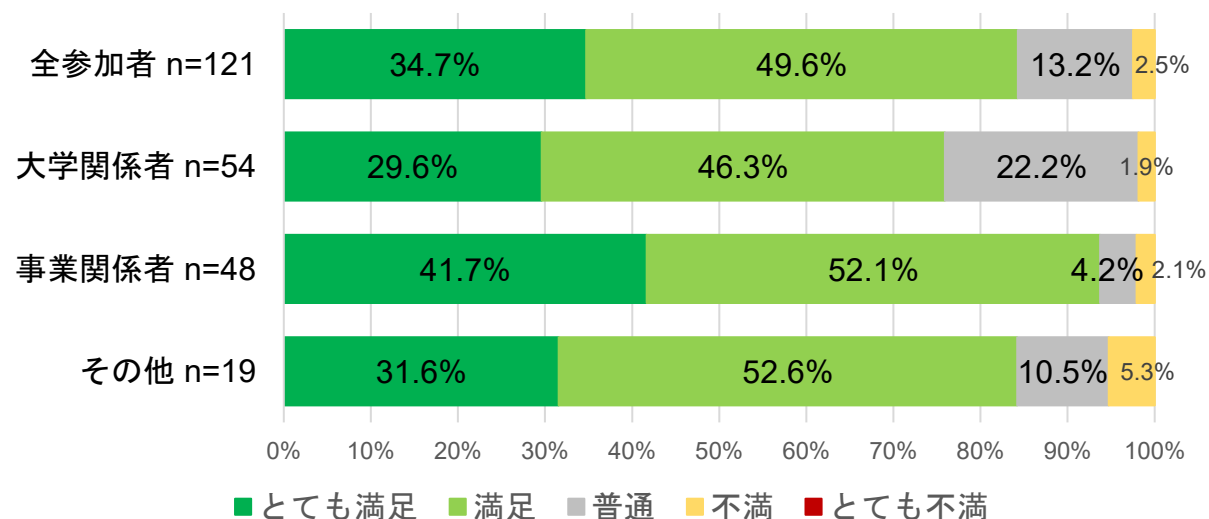
パネリストによる具体的な知見が高く評価

Q12 【パネルディスカッションIII】満足度を選択ください（大企業・スタートアップの協働、登壇：青野考氏、近藤玲氏、舘林俊平氏） 単一回答
n=121※参加者のみ

参加者の満足度

84.3%

「とても満足」 + 「満足」の合計



登壇者

青野考氏

近藤玲氏

舘林俊平氏

分析と評価

- 大企業とスタートアップの連携という重要テーマに対し、**8割以上の参加者が満足**と回答。
- 「とても満足」が約3割、「満足」が約5割を占め、パネリストによる具体的な知見が高く評価された。
- 不満と回答した割合は2.5%と極めて低く、イノベーション創出における協働の議論が参加者の関心に合致した。

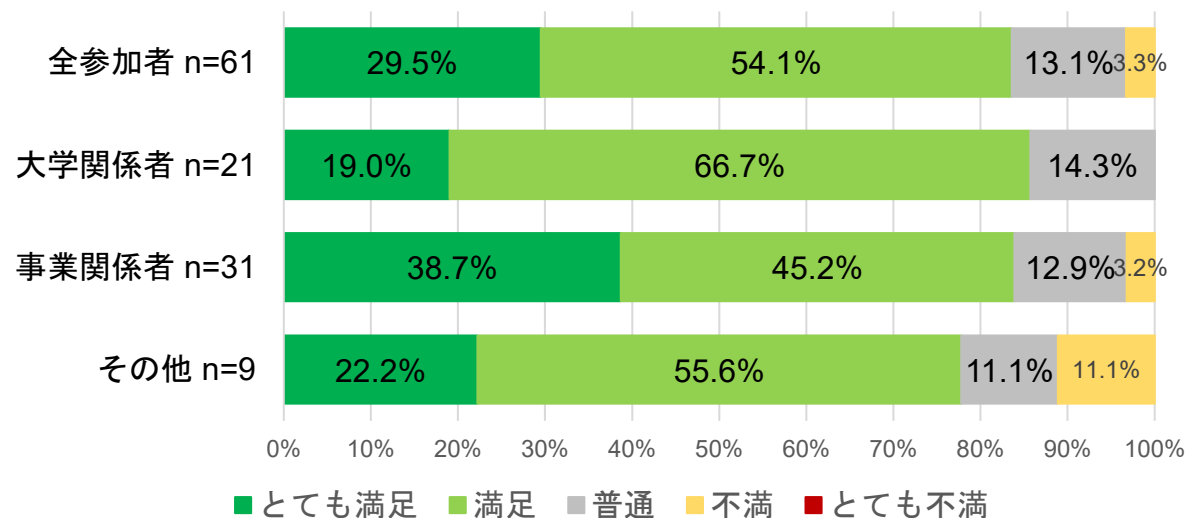
参加者の約8割が満足と回答する質の高い交流の場に

Q13 懇親会（交流会）の満足度を選択ください 単一回答 n=61※参加者のみ

参加者における満足度

83.6%

「とても満足」+「満足」の合計/参加者ベース

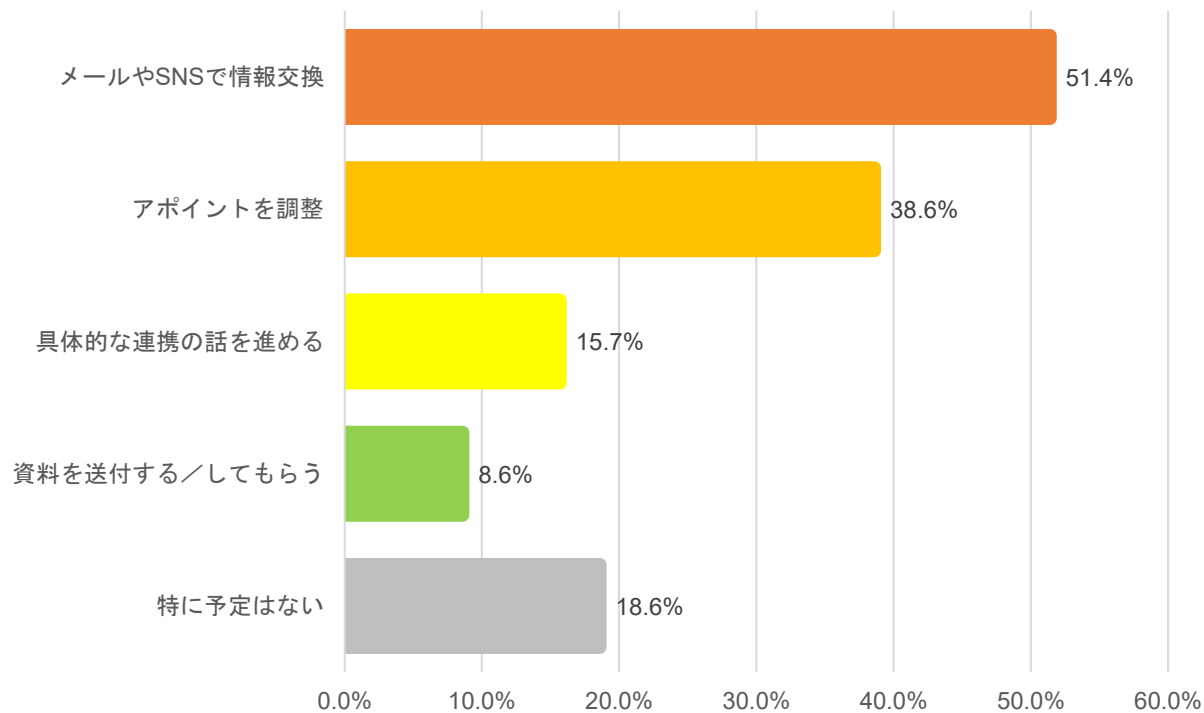


💡 分析と評価

- 参加した回答者に限定すると、8割以上が**ポジティブな評価**を下しており、有意義な交流が実現。
- 後の設問（Q14）では具体的なアクションに繋がっている例も確認されており、「**質の高い接点構築**」の場となっている。
- 全回答者の**57.3%**が「**参加していない**」と回答しており、懇親会への参加率向上が今後の課題。

ネットワーキングが具体的なビジネス・連携のきっかけとして機能

Q14 懇親会（交流会）において接点を構築された方々と、今後のアクションに繋がるケースがあった場合、当てはまるものを選択ください 複数回答



参加者の約8割に成果

懇親会参加者に限定すると、約8割が情報交換の継続やアポイント調整など、今後のアクションに繋がる接点を構築している。



継続的な情報共有

「SNS・メールでの情報交換」が51.4%と最多。緩やかな連携からスタートする層が厚い。



具体的な進展

アポイント調整（38.6%）具体的な連携（投資、共同研究等）（15.7%）など、実務に直結する成果も確認。



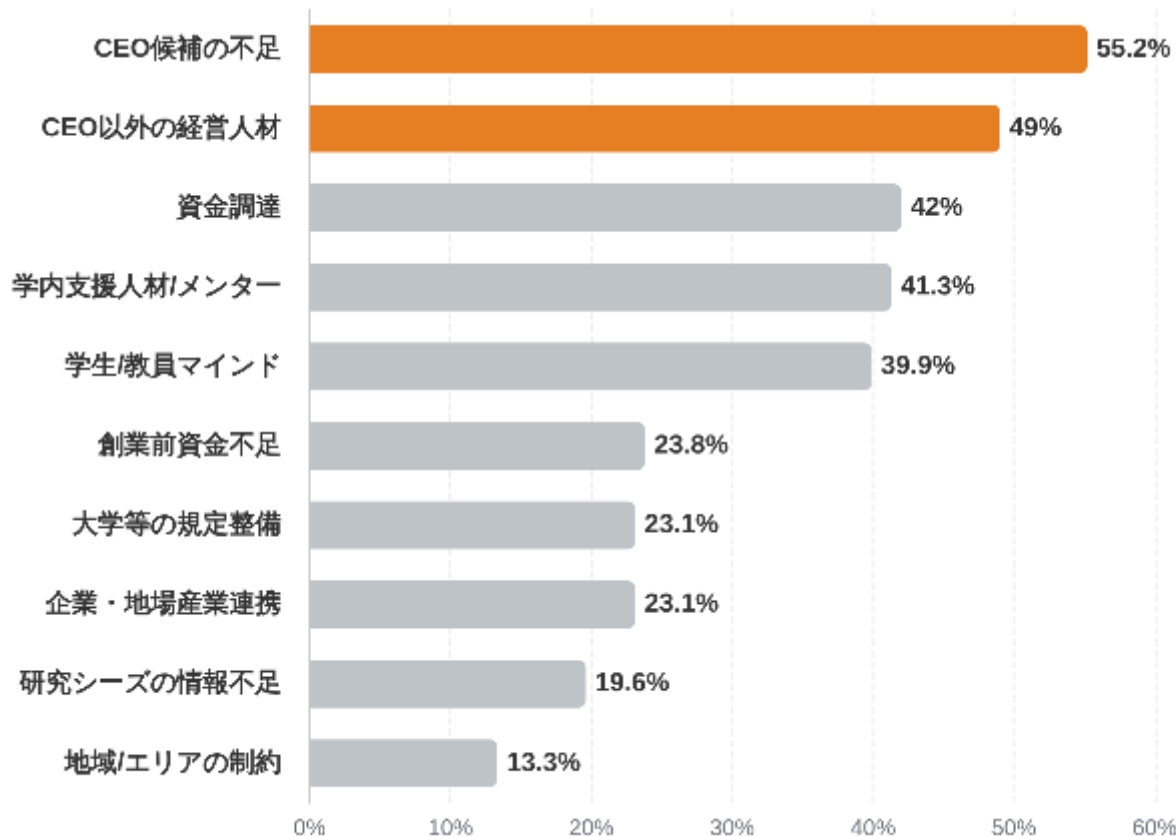
接点構築の場としての価値

単なる交流に留まらず、エコシステム形成に必要なリレーション構築の場として機能。

03：課題認識の多角的分析

資金調達以上に「経営人材（CEO等）の不足」が最大の障壁として浮き彫りに

Q15 ディープテック・スタートアップのエコシステムを形成する上での課題を選択してください 複数回答



⚠️ 主要な発見

回答者の55%以上が「CEO候補の不足」を指摘。
「CEO以外の経営人材」も含めると、経営体制の構築が最優先課題となっている。



経営人材・メンター不足

「経営プロフェッショナル（CEO候補）」の不足が最大のボトルネック。また、学内で伴走支援を行うメンター人材の質・量も課題視されている。



マインドセットの変革

学生・教員のアントレプレナーシップ醸成と、失敗を許容する環境づくりが急務とされている。



ギャップファンドの不足

創業前段階の研究開発資金調達が依然として困難。ギャップファンドの拡充と、手続きの簡素化が求められている。

マインドセット、人材確保、制度的障壁など、ソフト・ハード両面が課題

Q15その他 自由記述 回答数6件、Q16（上記について）具体的に感じておられる課題がございましたら記載ください 自由記述 回答数15件

意識・文化の壁

- “ 学生にリスクを取らせることの難しさ。（大学関係者）
- “ アカデミアでは「良い論文」が最大の目的であり、起業は二の次という風潮。（大学関係者）
- “ 研究シーズを個人のもものと誤解している研究者への啓発が必要。（大学関係者）

支援・経営人材の不足

- “ 経営人材プールの必要性と、起業家支援人材の圧倒的な不足。（大学関係者）
- “ 伴走支援ができるメンターや、実務に精通した専門家が足りない。（その他）

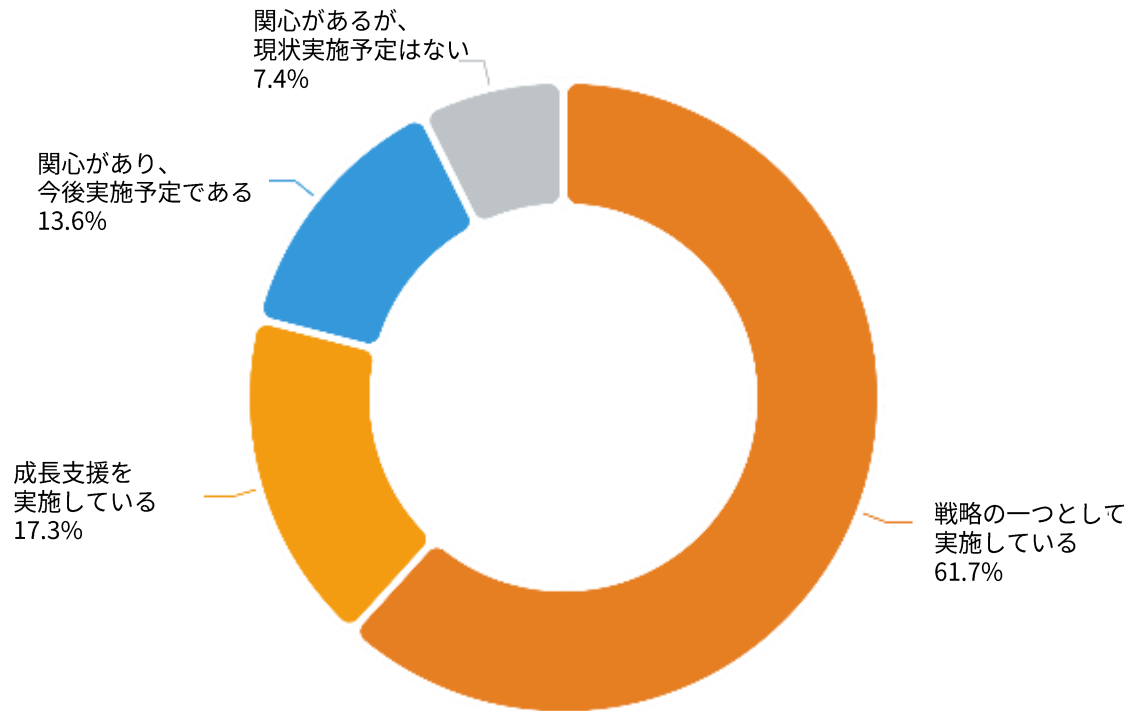
構造・制度的課題

- “ 国立大と私立大の研究体制の相違により、社会実装の「生産力」に差が出ている。（大学関係者）
- “ 産学連携における契約や知財の取り扱いの複雑さ。（大学関係者）

自由記述からは、単なる「資金不足」以上に、「**起業を特別視する文化**」や「**伴走できる人材の不在**」といった、大学内部のソフト面の課題が強く意識されている。特に研究者のマインドセット更新や、経営人材へのアクセス改善がエコシステム形成の鍵となる。

「戦略の一つとして実施している」大学が過半数を超える

Q17 (所属団体にて大学等を選択された方のみ) 貴学の今後の取り組みとして、スタートアップの成長支援への関心度を選択ください 単一回答 大学関係者のみ n=81



※ 「大学関係者ではない」回答を除いた81件を分母として算出

🎯 大学関係者の61.7%が戦略的实施

「戦略の一つとして実施している」大学が過半数を超え、単なる関心を超えた実務段階への移行が鮮明になっている。



高い実施・意欲率

「試行中」「今後予定」を含めると、回答した大学関係者の約9割が具体的なアクションを視野に入れている。

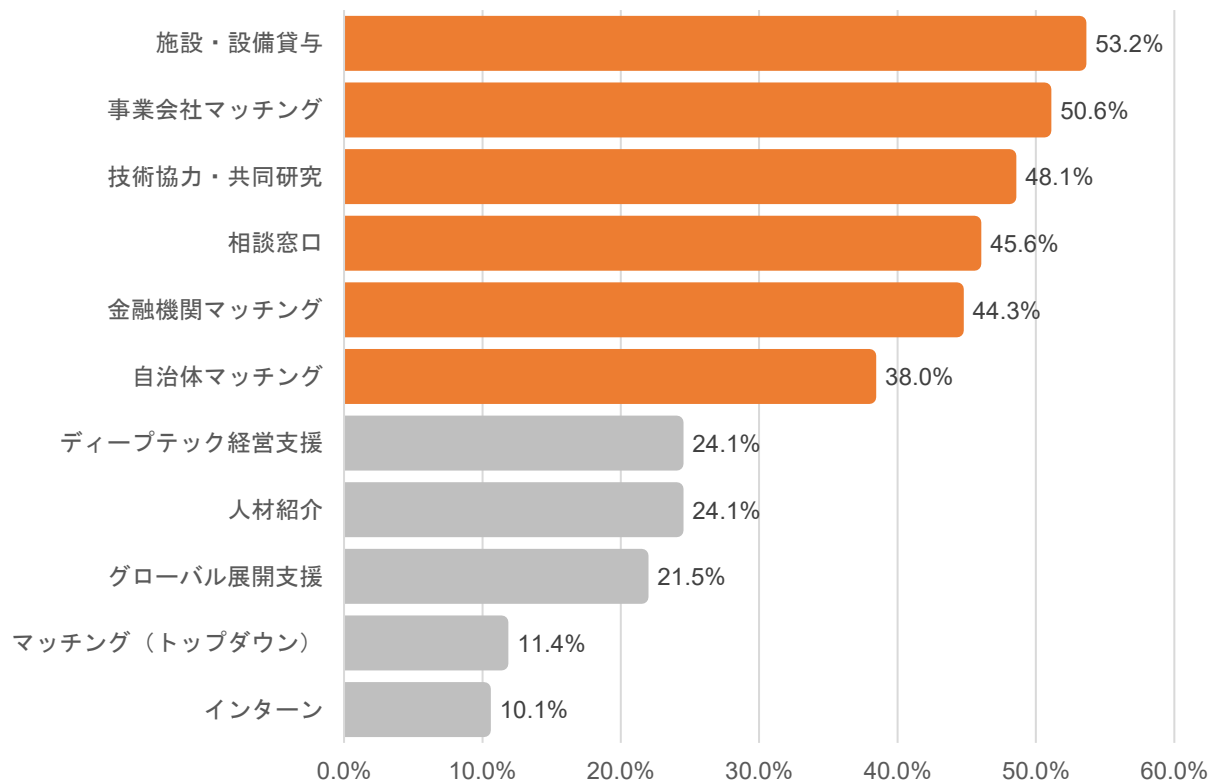


大学主導エコシステムの浸透

スタートアップ支援が大学の付随的業務ではなく、経営戦略の重要項目として定着しつつある傾向が伺える。

リソース提供・マッチングに加え、専門性の高い支援へと拡大

Q18 (所属団体にて大学等を選択された方のみ) 貴学がすでに実施しているスタートアップ成長支援機能を選択ください 複数回答 大学関係者のみ n=71



※「大学関係者ではない」回答を除いた71件を分母として算出



主流となっている支援

- ・研究施設・設備の貸与 (53.2%)
- ・事業会社とのマッチング (50.6%)
- ・技術協力・共同研究 (48.1%)
- ・相談窓口の設置 (45.8%)



拡大が期待される高度支援

- ・ディープテック経営支援 (24.1%)
- ・事業会社人材の紹介 (24.1%)
- ・グローバル展開支援 (21.5%)

大学の「研究リソース」と「ネットワーク」を活かした支援が主軸。今後は経営や海外展開といった、より踏み込んだ支援の質的向上が鍵となる。

シンポジウムの継続開催への期待と、さらなる実践的議論が期待されている

Q19 そのほか、ご意見・ご要望がございましたら記載ください 自由記述 回答数11件

事例の多様性

「国立大学だけではなく、**私立大学の事例**も紹介していただきたい。」

— 大学関係者の視点

議論の深化

「単なる問題提起の場ではなく、**解決策を合意するための場**として機能できないか。」

— 実践的解決への期待

情報の共有

「業務の都合上、すべてのセッションを視聴できなかった。**録画の共有**をぜひお願いしたい。」

— コンテンツ活用への要望

開催への評価

「大変有意義なシンポジウムをありがとうございました。」

— 運営へのポジティブなフィードバック

分析まとめ

参加者の多くが本シンポジウムの価値を認めており、今後は「**私立大学を含む事例の広がり**」や、具体的な課題解決に向けた「**合意形成の場**」としての機能強化が期待されている。

04：所属団体別比較と大学の取り組み

事業者の満足度が96.2%と突出。産業界のニーズに的確に応えた内容

Q5 本シンポジウム開催内容における満足度を選択ください 所属団体別

🏫 大学関係者

88.3%

とても満足 + 満足

🏢 事業者 (VC/企業等)

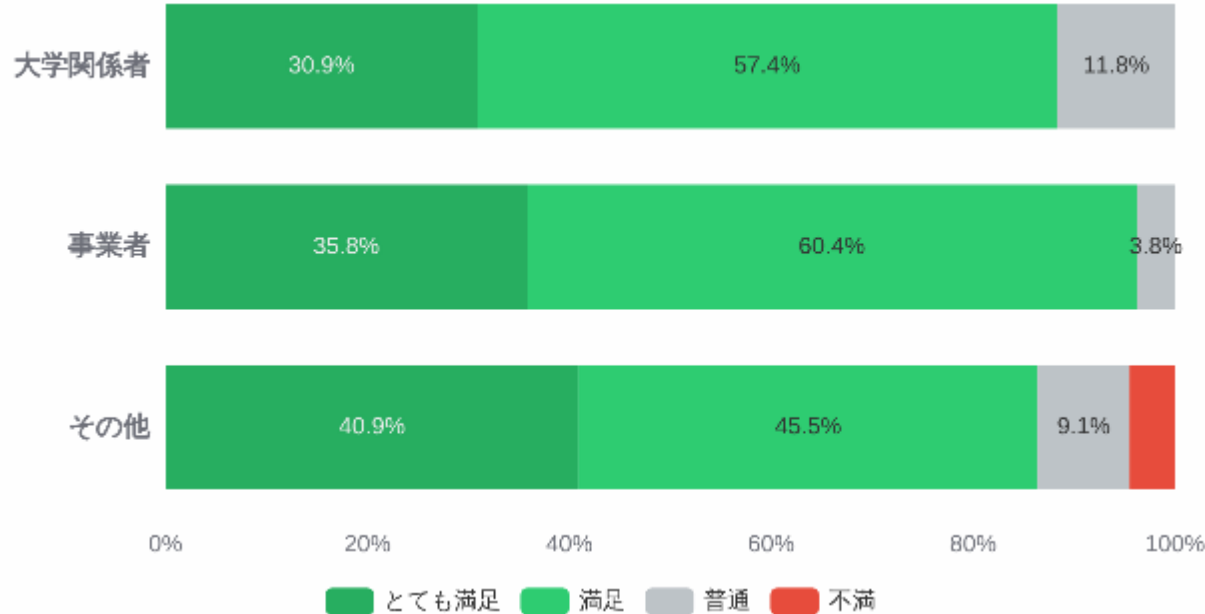
96.2%

とても満足 + 満足

👤 その他

86.4%

とても満足 + 満足

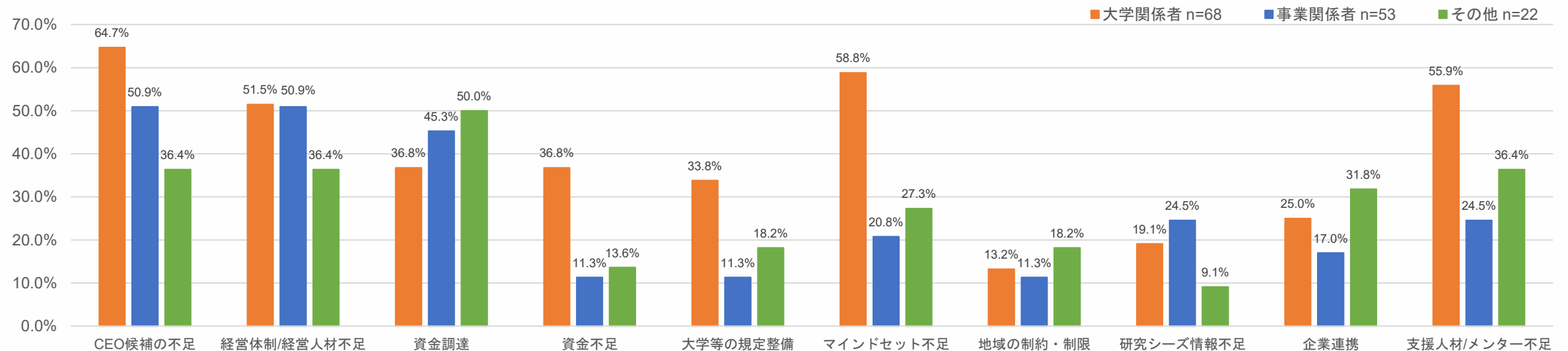


💡 クロス集計からの考察

- 事業者の「不満」回答は0%。投資家や企業担当者にとって、非常に有益な情報交換の場となった。
- 大学関係者も約9割が満足しており、エコシステム内の全プレイヤーからの支持を得ている。
- 「とても満足」の割合は**その他層(40.9%)**が最も高く、広範な関心層の知的好奇心を刺激した。

大学側は「内部体制・文化」、事業者は「経営資源・資金」を重視する傾向

Q15 ディープテック・スタートアップのエコシステムを形成する上での課題を選択してください 所属団体別



大学関係者の視点

- **マインドセットの変革**：学生や教員の意識改革(58.8%)が喫緊の課題。
- **支援体制の強化**：大学内のメンターや支援人材の不足(55.9%)を強く意識。

事業者の視点

- **資金調達のハードル**：大学側(36.8%)に比べ、資金面(45.3%)をより重く見る。
- **実務的な経営人材**：CEO以外の経営体制構築(50.9%)など、即戦力人材を重視。

その他の視点

- **企業との連携**：企業や地場産業との連携(31.8%)を重視。
- **地域の制約**：地域や地理的制限や格差(18.2%)について問題視。

独自リソースの開放から外部機関とのマッチングまで戦略層が主導する多角的な支援



リソース活用型の支援が先行

研究施設・設備貸与（53.2%）や相談窓口（45.6%）など、大学独自の強みを活かした支援が定着している。



外部連携の活発化

事業会社とのマッチング（50.6%）や金融機関連携（44.3%）など、エコシステム内でのハブ機能も強化傾向にある。



スタートアップの成長支援への関心度（Q17）と大学が実施しているスタートアップ成長支援機能（Q18）の考察

大学関係者の約6割がスタートアップ支援を「戦略」と位置づけており、戦略層の大学では、研究施設貸与（53.2%）や技術協力（48.1%）といった独自リソースの開放を土台としつつ、事業会社マッチング（50.6%）や金融機関連携（44.3%）など、外部組織を巻き込んだ多角的な支援を展開しているのが特徴である。これに対し、関心があっても現状実施予定がない大学では支援実施率が0%であり、本部のコミットメントの有無が実績に決定的な差を生んでいる。社会実装を加速させるには、施設提供などのハード面に留まらず、最大のボトルネックである「経営人材（CEO候補）の供給」や「教員・学生のマインドセット改革」を全学的な重要課題として本部が主導することが不可欠である。大学が単なる研究の場を超え、産学官連携のハブとして機能し、実務的な支援体制を深化させることが、持続可能なエコシステム形成の鍵となる。